

## 公立小松大学重点研究「みらい」 研究実績報告書

氏名	所属・職名		助成金額
千葉悠志	国際文化交流学部・准教授		600,000円
研究課題名	北陸地域における現代中東・イスラームの研究・情報発信拠点の形成		
研究期間	2020年8月1日～2022年3月31日		
研究の概要	<p>〔研究開始当初の背景、研究の目的、研究の方法等について記入〕</p> <p>今日、イスラーム教徒の数は世界人口の約4分の1に達しており、その宗教的・社会的特徴を知ることは今後の国際社会や多文化共生などを考えるうえでとりわけ肝要であると考えられる。重点研究「みらい」の助成をもとに、本研究ではとくに以下の2点を行うことを当初の目標として定めた。第1に、イスラーム世界のなかでも、その文化的・宗教的な基軸である中東地域に焦点をあてて、同地域におけるイスラームの現状と変化についての研究を進め、その成果を書籍として刊行することである。第2に、国内外の中東・イスラーム研究者を本学へと招聘し、研究の成果を公開講演会やワークショップのかたちで外部発信することである。北陸地域では、現代の中東やイスラームに関する研究教育があまり進んでいないため、以上を通して本学を「北陸地域における現代中東・イスラームの研究・情報発信拠点」としてPRすることが可能になると考える。</p>		
研究の成果	<p>本研究の成果は、3点に要約できる。第1に、本研究を通じて中東・イスラームに関する最新の研究動向を把握することができた。とくに、情報化の進展に伴う宗教の変容についての文献や資料を収集し、「宗教のメディア化」(mediatization of religion) や「デジタル宗教」(digital religion) に関する最新の研究動向を把握することができた。第2に、これまで申請者が中心となって進めてきた情報化と中東・イスラームに関する共同研究を継続し、その成果を書籍(千葉悠志・安田慎編『現代中東における宗教・メディア・ネットワーク——イスラームのゆくえ』春風社)のかたちにまとめて出版することができた。第3に、令和4年1月21日、1月28日、2月4日の3回にわたって連続講演会「北陸で学ぶ中東の政治・宗教・社会」を開催した。新型コロナウイルスの影響により、当初予定していた対面での講演会開催が困難になったことから、ハイブリッド形式での講演会に切り替えた。各回の参加者数は平均23名であり、講演会を通じて研究成果の一部を社会還元することができた。</p>		
研究成果発表状況	<p>〔学術誌掲載論文、図書、学会発表、新聞掲載、研究に関連して作成したWebページ等について記入〕</p> <p>書籍：千葉悠志・安田慎(編)『現代中東における宗教・メディア・ネットワーク——イスラームのゆくえ』春風社、2021年2月。</p> <p>講演会：連続公開講演会「北陸で学ぶ中東の政治・宗教・社会」オンライン(一部、石川県小松芸術劇場うらら2階会議室)詳細は公立小松大学のウェブサイトのイベントページを参照(<a href="https://www.komatsu-u.ac.jp/whatsnew/event/2022/01/3-1.html">https://www.komatsu-u.ac.jp/whatsnew/event/2022/01/3-1.html</a>)、</p>		
経費の執行状況	区 分	執行額(円)	備 考
	1) 学術書刊行助成費	300,000円	
	2) 講演会会場費	37,060円	
	3) 学生アルバイト代 (講演会補助、データ整理等)	54,000円	
	4) 講演謝金(6名分)	180,000円	
	5) 物品(外付けHD)	7,880円	
	6) 物品(コピー用紙)	1,980円	
	7) 物品(トナーカートリッジ)	19,000円	
合計	599,920円		